

まえがき

# 準備しているか、していないかで、 危機管理に差がつく。

ピンチに強い人と、そうでない人がいます。

危機管理がうまいかヘタかは、その危機について、「考えたことがあつたか、なかったか」で圧倒的な差がつきます。

いざという時のことをじっくり考えて、解決策を見つけておく必要があると言っているわけではありません。

少しでも考えたことがあつただけで、考えたことがまったくない人よりは、助かる確率が高くなるに高くなります。

危機に陥つて助からない人は、「まさか、そんなことがあるわけない」と油断しているタイプです。

まさかそんなことが起こると思っていないから、いざ起こった時にパニックにな

ってしまいます。

そうすると、正しい冷静な行動がとれなくなりませう。

逆に「世の中は、いつ、どんなことが起こるか分からない」という姿勢でいれば、急激な変化に対応できるのです。

大災害にしても、テロにしても、戦争にしても、そこで起こることは、言ってみれば急激な変化です。

小さな変化は毎日起こっています。

変化が急激に起こるのが危機です。

急激な変化も起こりつるという姿勢を常に持っている人が、いざという時に力を発揮できる人なのです。

スピード  
危機管理

その①

「まさか」といふことが起る、  
と考えよう。